

# JUKI PLAZA

高速電子単環根巻きボタン付けマシン **AMB-289**

## 国内工場存続には、最新のマシン導入が不可欠 まとめ作業の大幅内製化を可能にするマシン

日本スポーツウェア株式会社

業務部長 田中健司さん

### 最新鋭マシンは国内工場の救世主

同社は㈱ニチメンインフィティ100%出資の生産工場で、設立は1965年。京都府京丹後市の久美浜にある。生産するアイテムはマックレガーを中心としたスポーツ・カジュアル衣料品である。

同工場の社長である堀澄文さんは親会社である㈱ニチメンインフィニティの生産部長を兼務しており、同工場の日常の運営は業務部長である田中健司さんが担当している。

田中さんが工場に出向となったのは3年前。

それまでは本社で海外工場の生産管理を行っていただけに、中国でのモノづくりの状況は良くご存知。㈱ニチメンインフィニティの国内工場として布帛製品を作るのは同社だけ。そんな中「私がこの工場に赴任したときは、カジュアル製品ということで本縫

いマシンが中心となっていました。人手の問題や人件費で中国には到底勝てないので、可能な部分の機械化が急務と思えました。」と田中さん。

以後田中さんは、アパレルの自家工場として生き残るためにさまざまな改革を進めるが、最新鋭のマシン導入は、品質の安定化や生産性向上の重要な要因であった。

古い車に乗っていると新車のよさに気づかない。  
使い勝手の良いAMB-289

「カジュアル製品作りはどうしても本縫いマシンが中心になるのですが、DDL-9000SSなどのダイレクトドライブは、走り出しが安定しているし、オイルパンに油が無いので汚れの問題から解消され

る.....など効果は実感できます。古い車に乗っていると新車のよさに気づきませんがそれと同じですね」と田中さん。それを作業者が一番感じているという。

モノづくりの中国への移行が続くが、「国内で作るといのはアパレルメーカーとしての良心です。自分たちで作らないと商社マンになってしまいモノづくりが判らなくなります。モノづくりが分かってこそ品質が向上できます。」と田中さん。

だから、中国より良いモノづくりをしたいと、縫製工場では先端的な検反機の導入を皮切りに、生産の効率化・高品質化に取り組む。

### 根巻きボタン付けは差別化のポイント

CAMも導入済で、12名必要だった裁断部門を半分にした。ハンガー納品が増加したため、遠隔地の久美浜では料金が割高なので、仕上げプレス作業も岐阜にアウトソーシングして、搬送費用削減、繁忙・閑散対策をするなど、改革は進んでいる。そしてそんな一環として導入されたのが、高速電子単環根巻きボタン付けマシンAMB-289。効果は顕著だ。

「当社の生産するカジュアル製品のジャンパーやコートはしっかりと縫製をしていますから、長くご愛用いただきたいのです。そのためボタン付けもきちんと根巻きをして使用に耐えるものになりたい。このマシンは位置決めが早く、4穴でもしっかり付けてくれ

て、根巻きの形がきれいです。スピードも速く安定動作なので1日400枚作業も可能です。とめ外注費用と比較するとリース代もペイします」と田中さん。

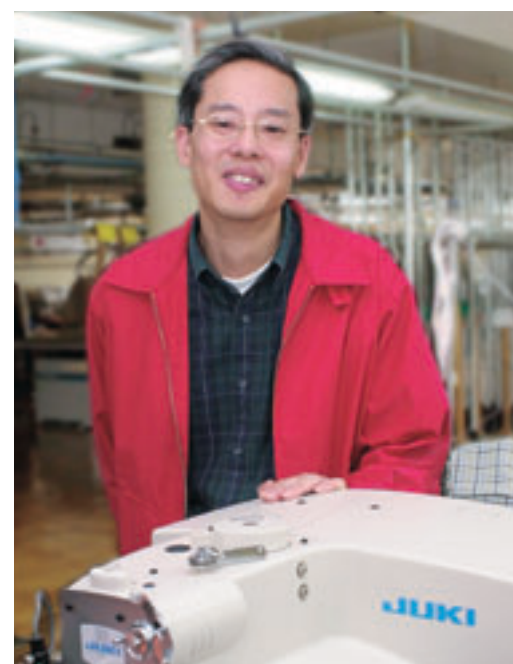
同社の縫製部門は2班編成で、1班がメンズを担当し38名、2班がレディースを担当し32名。生産するロットは平均が1,000~2,000枚、大口は4,000枚程度のももある。

このマシンの導入でまとめ作業の大幅内製化が実現した。外注依存が高かった作業が自社で計画的に生産管理できるために、納期遅れ対策にも効果的である。

「根巻きボタン付け作業が自社の作業になったおかげで日産数にはば追いついて処理できるようになりました。その月に生産したものは月内に出荷を完了する。工場運営の基本の大きな助けとなっています」という。

効果的な設備の投入は、その作業の効率化だけでなく、全体の生産性や品質向上にも効果をもたらす.....そんな事例をここに見ることができる。

日本スポーツウェア株式会社  
本社：京都府京丹後市久美浜町  
創業：1965年  
社長：堀 澄文  
従業員数：約100名  
生産品：マックレガーを中心とした各種カジュアルウェア



「生産を1、2週間前倒しで進めることで、後の余裕が生まれ、先手の管理を可能にします」と工場の運営を担当する業務部長の田中健司さん



京丹後市久美浜にある工場

手がけるアイテムはジャンパー、コートなどスポーツ・カジュアル製品で、根巻きボタン付け作業が多い



すくい縫、シャンクボタン、マーブルボタン、カボタン付けが可能で、4つ穴ボタンでも手縫い風の品質を実現。ボタンローダーも標準装備して、日産1600-2000個と生産性も高い



ボタンローダーも装備されている



那須研修センターで設備保全の研修を受けた大垣文乃さん